

HINO TEAM SUGAWARA DAKAR RALLY NEWS

2017.7.26 No. PD18-12



シルクウェイラリー2017、12 位でゴール！

7月8日から、ロシア～カザフスタン～中国で開催されたシルクウェイラリー2017 は、22 日にフィナーレを迎えました。日野レンジャー2号車で参戦した日野チームスガワラは、無事に完走してトラック部門総合 12 位でゴール。今回のダカールニュースでは、シルクウェイラリー後半戦のハイライトと、シルクウェイラリーを終えたチームメンバーのコメントをお送りいたします。



7月17日、前日の休息日ですっかりリフレッシュされた日野レンジャーは、本格的な砂丘のコースに臨みました。昨年経験したコースのため快走を続け、その後には凹凸が激しいコースを300km以上走りました。今回、車両の実戦テストの一つとして、サスペンションの感触を確かめるという目的がありましたが、非常に良いテストになったステージでした。



7月18日、この日は道なき道を行き、途中には枯れ川が出現するという、全体的に路面の悪いコース設定でした。スピードが求められる高速ステージとなりましたが、ドライビングとナビゲーションのリズムが合い、日野レンジャーはノートラブルで快走しました。

7月19日、この日は当初SSが2本予定されていましたが、遺跡保護や環境保護の観点から前半のSSがキャンセルとなり、後半のSS1本のみとなりました。前日に続いて、枯れ川や砂地など路面の悪いコースでした。



7月20日、本格的な砂丘が続く難易度の高いコースで、今大会の中でも厳しいステージの一つでした。オフピストと呼ばれる全く道がない場所を走る距離が長く、意識しなければ方角を見失ってしまうため、ナビゲーションが先導的役割を果たす、コース選択の難しいステージでした。日野レンジャーはこの日も快走を続け、順調にゴールしました。

7月21日、この日はSSが2本あり、どちらも砂丘を超えるステージでした。隆起の激しい本格的な砂丘で、日野レンジャーは、フロントバンパーを破損するなどのダメージを受けるも無事にゴールして、この日はSS順位9位を記録しました。



7月22日、最終日となるこの日は、ステージ14として100kmのSSが予定されていましたが、天候不良の影響でキャンセルになったため、競技車はそのまま移動してパルクフェルメに収められました。この日の夕方から、西安でゴールセレモニーが行われ、過酷なシルクウェイラリーを無事完走した4輪、トラックが次々と紹介され、ポディウムで祝福を受けました。もちろん日野レンジャーも完走し、ポディウムでは駆け付けたゲストの皆様と健闘を称え、喜びを分かち合いました。



菅原照仁ドライバー：

今回のシルクウェイラリーでは、序盤から雨に悩まされ、我々は2日目に、競技続行も危ぶまれるほどの状況に陥りました。メカニックの皆さんにも負担をかけてしまったと思いますし、応援して下さる皆様にも心配をかけてしまったと思います。ただ、参戦の目的として掲げていた車両のテストという意味では、試したいことが最後まできちんとできたので、とても充実していました。シルクウェイラリーのコースは、ダカールラリーに匹敵するほどの厳しさですので、例えばサスペンションのセッティングを変更して、フィーリングを掴むというようなことを、実戦を通じて現場で確認できたことは、大きな収穫です。日野レンジャーもどんどん速くなり成長を遂げていますが、同様に他のチームもどんどん進化をしていく中で、今回のレースで新しい挑戦が出来たことは、将来につながっていくものだと思います。

杉浦博之ナビゲーター：

車両が早くなっていることによって、序盤からナビゲーションの仕方を大きく変えました。横転しそうになったステージ2や、スタックしたステージ4のトラブルは、日野レンジャーの走り方が変わったことに起因するものだと思います。つまり、このようなトラブルは安定した走りではなく、タイムを追い求め毎日フルアタックし、思い切り走れるようになった結果なので、良い経験になりました。ナビゲーターとしても、刺激的なレースでした。



鈴木誠一メカニックリーダー：

足回りやトランスファースの状態も確認でき、このシルクウェイラリーで車両の良いテストができたと思います。ダカールラリーに向けて明確な課題が見えたので、これからまた調整していきたいと思います。

岡部陽一メカニック・サブリーダー：

長い様で、短いレースでした。初日から雨に見舞われ、整備がうまく回らず苦労しました。2日目には、日野レンジャーが横転寸前になるなど、大きなトラブルにも見舞われて昨年以上に大変でした。ただ、そのおかげでメカニックの皆さんは、雨の中でも整備をする忍耐力がつき、強くなったと思います。また、選手もメカニックを信じてフルアタックしてくれたことに、感謝しています。チームとしても絆が深まり、良かったです。

高野雄生メカニック（群馬日野自動車）：

自分にとって初めてのラリー参戦でしたが、想像していた以上に過酷で何度もくじけそうになりました。しかし、メカニックリーダーの鈴木さんやサブリーダーの岡部さん、また、チームのみんなに支えられ、何とかラリーを戦い抜くことが出来ました。今回みんなに支えられた分、来月のラリーモンゴリアはチームのみんなを支えられるように、頑張ります！

木下大樹メカニック（横浜日野自動車）：

初めてのラリー参戦で、さらに雨などの悪条件が重なり、辛く大変なことが多かったのですが、ゴールセレモニーが感動的で、振り返ってみるととても楽しかったです。今回の経験を、次戦のラリーモンゴリア、そして本戦のダカールラリーに生かしていきたいと思っています。

山内愛一郎メカニック（富山日野自動車）：

今回、初めての海外への渡航、初めてのラリーへの参戦でわからないことだらけで、しかも整備時間中のほとんどが雨ということもあり、中盤から少し体調を崩すなど予想外な出来事が多く、苦戦しました。次戦のラリーモンゴリアや、来年のダカールラリーでは、今回の経験を生かしチームに貢献できるよう、頑張ります！

湍谷亮太メカニック（神戸日野自動車）：

初めてのラリー参戦でわからないことが多い中、雨が降り続き、連日泥の中で整備を行いました。また、中国に入ってから気温が上がり、今度は暑い中で作業など過酷な状況を経験しました。そのため、過酷な状況下での免疫は、かなりついたと思います。今回の経験を生かして、次戦のラリーモンゴリア、そしてダカールラリーも頑張ります。

田中宏治サポートカードライバー：

今回、シルクウェイラリーを終えて、サポートカーも約 10,000km 走行しました。ユーラシア大陸を横断する行程で、途中の時差調整も 2 回入り、更に雨などで気温が低い日が多く、私も含めメカニックの皆さんも体調面で苦労したレースだったと思います。しかし、移動中の日野レンジャーのトラブル時の対応など、ダカールラリーで直面しうる様々な経験ができたと思います。また、ゴール地である西安は今までの寒さから一変し、日中 46 度まで上がって本当にびっくりしました。



DAKAR RALLY

日野自動車の公式ウェブサイトでは、最新ニュースなどのさまざまな情報を発信しています。

日野 ダカール

検索

または、<http://www.hino.co.jp/dakar/>にアクセスしてください。

編集・発行 日野自動車（株）ダカール事務局 （渉外広報部 広報室） TEL: 042-586-5910